

平成27年度 オリーブ栽培暦（果実生産用）

発行：江田島市オリーブ振興協議会
 注意：枝葉を収穫物として使用する場合には使用できません。

時期	生育ステージ及び主な栽培管理	対象病害虫・散布部位	薬剤名	濃度	水100ℓ当たり薬量	収穫前日数/年間使用日数	
1	上 中 下 完熟堆肥の施用	《整枝の基本》 ①樹全体に陽があたるようにする。②樹高を低く保つ。 《剪定する主な枝》 徒長枝、密生枝、衰弱枝、下垂枝など 《その他注意点》 ・未結実～結実初期の樹は、整枝中心に行い樹形を整える。 ・成木は、結実を確保するため弱剪定を基本とする。 ※炭疽病が発生する圃地では、十分な剪定を行い、風通しを良くする。また、羅病枝を徹底的に剪除する。	切り口や傷口の癒合促進 《薬剤名》 トップジンMペースト 《使用時期及び回数》 整枝剪定時、病患部削取り直後、病枝切除後（年3回以内） 《使用方法》 切り口等に原液を塗布する。				
2	上 中 下 苦土石灰の施用						
3	上 中 下 整枝剪定、支柱立て 除草、春肥の施用 (花芽分化の開始)						炭疽病(多発圃)樹全体
4	上 中 下 (萌芽の開始)	ハマキムシ類確認時	オリーブアナアキゾウムシ(必須防除)樹幹のみ	スミチオン乳剤	50倍	2,000ml	21日前/3回
5	上 中 下 (花芽の完成) 灌水(5月中～6月中) (開花始め)		梢枯病(発生確認防除)樹全体	トップジンM水和剤	1,000倍	100g	30日前/2回
6	上 中 下 開花直後防除 (幼果の発育) 除草、夏肥の施用		ハマキムシ類(発生確認防除)樹全体	デルフィン顆粒水和剤	2,000倍	50g	前日/一回
7	上 中 下 (旧葉の落葉) 灌水(梅雨明け～8月下旬まで)		炭疽病(必須防除)樹全体	ペンコゼブ水和剤	600倍	167g	90日前/2回
8	上 中 下 (果実の肥大)	ハマキムシ類確認時	オリーブアナアキゾウムシ(必須防除)樹全体	アディオン水和剤	2,000倍	50g	7日前/3回
9	上 中 下 (果実の成熟)		炭疽病(必須防除)樹全体	ペンコゼブ水和剤	600倍	167g	90日前/2回
10	上 中 下 収穫の開始 除草、秋肥の施用		炭疽病(必須防除)※ミッション対象	アミスター107ロアフル	1,000倍	100ml	30日前/2回
11	上 中 下		ハマキムシ類(発生確認防除)樹全体	デルフィン顆粒水和剤	2,000倍	50g	前日/一回
12	上 中 下		オリーブアナアキゾウムシ(発生確認防除)樹全体	ダントツ水溶剤	2,000倍	50g	前日/2回

《選別時に守ること》

区分	新 漬 用	オイル用
取り除く果実	腐敗果、病果、傷果、過熟果、未熟果、小果等	腐敗果、病果等

- 収穫後、果実が傷まないようにする。
 ・通風性のあるコンテナに入れ、ビニールやポリ袋、段ボール箱などで保管しない。
- 冷蔵庫で保管しない。
- 落果した果実を混入させない。
- 水に漬けない。

- スミチオン乳剤は、樹幹部に丁寧に散布する。散布時はヒコバエや下枝を除去し、葉や果実に薬液がかからないように注意する。
- スミチオン乳剤とバイオセーフ以外の農薬は、樹全体に均一に散布する。
- 梢枯病の発生圃は、トップジンM水和剤を樹全体に散布するとともに、炭疽病の防除を徹底する。
- オリーブアナアキゾウムシ幼虫の(発生確認防除)剤としてバイオセーフ2,500万頭(約50g)/50ℓ(-日/-回)がある。樹幹部に薬剤が滴るまで散布する。また、生物農薬であるため、使用・保管方法に注意し、特に初めて使用する場合には、JA等指導機関の指導を受けることが望ましい。

◎ 土づくりと施肥

完熟堆肥(牛糞・バーク堆肥等)、苦土石灰及び化成肥料は、それぞれの施用期間を1ヶ月以上あける。いずれも樹冠下に均一に施し、施用後は表層土と十分に混和する。

(1) 土づくり

- 完熟堆肥は、1月中旬に10a当たり2tを目安に散布する。
- 粒状苦土石灰は、2月中旬に順調な生育を確保するため、樹齢に応じて10a当たり30～60kg施用する。具体的な樹齢別10a当たり標準施肥量は次のとおりで、()内は1本あたりの施肥量を表す。

樹 齢	未結実期 (植付後1～3年:100樹/10a)	結実初期 (同4～9年:100樹/10a)	成木 (同10年以上:50樹/10a)
施用量	30kg(300g)	45kg(450g)	60kg(1,200g)

(2) 施 肥

- 化成肥料は、安定した収量を確保するため、樹齢や樹勢、前年の結果量、土壌条件を考慮して施用する。「ひろしまフルーツBB濃縮300:チッソ13%,リンサン10%,カリ10%」を使用した場合の樹齢別10a当たりの標準施肥量は次のとおりで、()内は1本当たりの施肥量を表す。

時 期	樹 齢	未結実期 (植付後1～3年:100樹/10a)	結実初期 (同4～9年:100樹/10a)	成木 (同10年以上:50樹/10a)
春肥(3月中旬)		17.5kg(175g)	35.0kg(350g)	57.5kg(1,150g)
夏肥(6月下旬)		7.5kg(75g)	19.0kg(190g)	27.0kg(540g)
秋肥(10月下旬)		7.5kg(75g)	19.0kg(190g)	27.0kg(540g)
合 計		32.5kg(325g)	73.0kg(730g)	111.5kg(2,230g)

裏面に続く...

…裏面, 栽培暦からの続き

◎ 雑草の防除

農薬名	対象雑草名	処理方法	使用時期 (回数)	10a当たり		効果等
				使用量(mℓ)	散布量(ℓ)	
ラウンドアップ マックスロード	スギナ	雑草生育期 茎葉散布	収穫7日前まで (グリホサートを含む農薬の 総使用回数3回以内)	1,500~2,000	(少量)25~ 50 (通常)50~ 100	・草が枯れるのは遅いが, 効き目が長 続きする。 ・梅雨以降の夏草に有効。
	マルバツユクサ			500~1,500		
	一年生雑草			200~500		
	多年生雑草			500~1,000		
ザクサ液剤	一年生雑草	雑草生育期 茎葉散布	収穫前日まで(雑草生 育期:草丈30cm以下) (年間3回以内)	300~500	100~150	・散布後6時間以内の降雨は効果を 減ずることがあるので, 天候をよく見 極めてから散布する。 ・冬場は効果の発現が遅れることがあ る。

江田島市オリーブ振興協議会

【問い合わせ先】

(事務局: 江田島市農林水産課オリーブ振興
室)

TEL 0823-40-2770

FAX 0823-40-2073

E-mail nousui@city.etajima.hiroshima.jp